

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【徳島県立鴨島支援学校】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・ V （複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	<p>小学部1年1名，2年1名，4年2名，6年3名 中学部1年0名，2年3名，3年0名 高等部1年2名，2年0名，3年4名</p> <p>※今年度，病棟学級の児童生徒については，病棟閉鎖のため参加することが難しかった。</p> <p>校内教職員45名，保護者11名， 板野支援学校，ひのみね支援学校，国府支援学校とリモート対戦</p>
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（体育，総合的な探求（学習）の時間） ② 行事名（校内ボッチャ大会，親子ボッチャ大会） ③ その他（） <p>（2）地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ イベント名 （リモート de スポーツ大会・徳島スポーツ大会） ⑤ その他（）
4 目 標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック競技「ボッチャ」体験を通して，パラリンピックへの理解・啓発や東京オリ・パラへの学びや関心を深める。 ・児童生徒及び保護者，地域の方々と「ボッチャ」競技に親しむことを通じて，競技の楽しさを発信するとともにお互いを尊重し合い，理解し合う「インクルーシブな社会（共生社会）」の構築に寄与する。
5 取組内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャを広めよう。 ・ボッチャを楽しもう。 </div> <p>1 ボッチャを広めよう</p> <p>（1）オリ・パラ教育推進校指定校のボード作り</p> <p>パラリンピックの競技の一つであるボッチャの楽しさを広め，オリ・パラ教育推進校としてパラリンピックを盛り上げる取組として，図工や美術等の時間に全校児童生徒が参加してボード作りに取り組んだ。作成したボードは本校玄関に掲示し，来校者を迎えている。</p>



(2) 地域の学校へボッチャの伝達

小学部では飯尾敷地小学校の出前授業で本校児童の紹介と併せて、体育等で取り組んでいるボッチャについて小学校児童に紹介し、体験をしてもらった。また、吉野川市立学島小学校に本校の教員3名を「オリ・パラ教育推進授業」のボッチャ体験講師として派遣した。



(3) 「令和2年度あわ(OUR)教育発表会」での情報発信

「オリ・パラ教育推進校」としてボッチャを通じた交流や取組を中心に、本校の教育活動の紹介動画を作成し、YouTube「徳島県民チャンネル」で本校の魅力発信をした。



★鴨島支援学校の取組 (2/28まで公開)

！ここをクリックしてね！



(4) ホームページによる情報発信

ホームページでも、積極的にボッチャの取組や行事・授業の様子を発信している。



2 ポッチャを楽しもう

小学部、中・高等部の体育の授業においてポッチャを実施した。取組も2年目となり、児童生徒が休み時間にも進んで練習するなど、児童生徒のポッチャの技術も向上した。ポッチャを楽しむことについても、方略を考え、ねらって勝ちに行くという楽しさにレベルアップをした。

(1) 校内での取組

① 校内ポッチャ大会

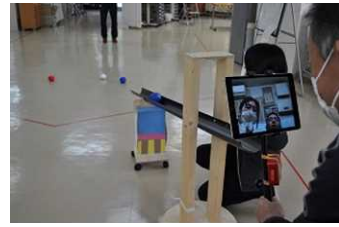
コロナ禍のため感染拡大防止を踏まえ、運動会を中止し、代替行事として、教職員を含めた全校での校内ポッチャ大会を実施した。普段関わることの少ない他学部の児童生徒や教職員と対戦し、校内での交流が生まれ、コロナ禍でも活動する楽しさを味わうことができた。



② 保護者とのポッチャ大会 (第2回参観日)

10月の学習参観日に、各学部で親子ポッチャ大会を行った。児童生徒とともに保護者も積極的にゲームに参加したり、コントロールが難しいポッチャボールを投げたりすることで、ポッチャの奥深さや面白さを感じ、親子でポッチャを楽しむことができた。





③ 第2回校内ボッチャ大会

今年度は、コロナ禍の感染予防のため、昨年度実施できた吉野川市職員労働組合の方々との「ふれあい交流会」が中止となり、校内のボッチャ大会に変更して実施した。今回は児童生徒のみの対戦であったが、7月に行った校内ボッチャ大会から一人一人の児童生徒の成長が見られ、この1年間の取組の成果を発揮する機会となった。



(2) 他校との取組

今年度は、学校同士の交流及び共同学習や地域交流等の直接的な交流が難しかったが、リモートによるボッチャ大会に参加し、コロナ禍においても他校の児童生徒と対戦し、ボッチャのルールをアレンジしたゲームである「ターゲットボッチャ」を楽しむことができた。

① 新型コロナに負けるな！リモート de スポーツ大会

【ターゲットボッチャ】に参加

12月3日、高等部の生徒5名が板野支援学校とひのみね支援学校の高等部の生徒とリモートでターゲットボッチャにより対戦した。在宅の生徒もリモートで参加した。コロナ禍においてもスポーツを通しての学校間交流をし、他校の生徒と楽しさを共有することができた。



② とくしまスポーツ交流大会

【競技：ターゲットボッチャ】に参加

1月27日、小学部の児童5名がターゲットボッチャに参加した。ひのみね支援学校中学部と国府支援学校高等部のチームと対戦した。在宅訪問の児童もリモートで参加し、VOCAでスタートコールをして友だちが投球したり、応援したりした。大会後もエキシビジョンマッチとして延長戦を楽しむことができた。

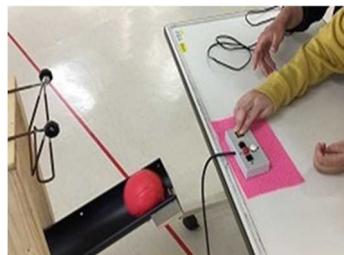


6 主な成果

- 取組2年目の今年度は、昨年度以上にボッチャの楽しさを味わいながら、さらに自信を持って取り組むことができた。
- 外部の方との交流はあまりできなかったが、校内ボッチャ大会や保護者と一緒に競技することで、鴨島支援学校が全校を挙げてボッチャやパラリンピックを盛り上げようとする気持ちが高まった。
- リモートによる参加の工夫をすることができ、遠隔授業として学校の行事に参加することができた。
- オリ・パラ教育推進校として、活動の理解・関心が広がるよう、ホームページや「令和2年度あわ(OUR)教育発表会」YouTube「徳島県民チャンネル」等で積極的な発信ができた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- (1) 児童生徒の実態に合わせたランプスや投げ方の工夫
- ① リモコンでランプスを操作し、投球装置を製作した。
 - ② 好きなマスコットを引っ張ることでボールが転がる仕組みを整えた。
 - ③ 向きや傾斜が容易に変えられる手作りのランプス台を複数台製作した。



① リモコンで投球を操作



② 引っ張り投球



③ 向きや傾斜を変えられるランプス台

(2) 的を意識するための工夫

自分でボールを投げることができる場合でも、見え方に困難さがある場合、距離感をとることが難しいことがあり、興味を引くもの、見やすいもの等を目標物にして投げやすくする等して、一人一人の困難さに配慮した。



(3) リモートによる参加の工夫

リモートにより在宅訪問、及び自宅療養の児童生徒が参加できた。小学部の児童は会場の様子を見ながら、VOCAで「スタート」の合図をし、教員や友だちが代理で投げて勝負した。高等部の生徒は、タブレットの画面を見ながらランプスの向きや角度を会場の教員に指示し、投球の詳細を自分で決めて勝負に挑むことができた。それぞれ家庭から学校のゲームに参加することができ、主体的・対話的な学びに取り組むことができた。



<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> •令和3年1月になり、徳島県でも急な新型コロナウイルス感染拡大のため、数日前にふれあい交流会の中止を決定した。そのためリモートへの切り替えや校内の対応が慌ただしくなってしまったことによる課題が残ったが、コロナ禍におけるスポーツの経験を重ねることができた。 •今年度は感染予防のため、実際に会って交流することが難しかった。小学校との交流でもリモートを検討したが、リモートの設備や機器、技術等の問題があり、今年度は叶わなかった。 •外部とリモートで競技を実施していくために、情報機器の技術を学び、機器やネットワーク環境の整備等をクリアにしていく必要がある。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> •2年間の取組で、児童生徒のボッチャに取り組む姿勢は、素晴らしいものがあり、回数を重ねるごとに、自ら楽しもうとする意欲やたくさんの人にボッチャを知ってもらいたいという気持ちが増してきた。現状では、新型コロナウイルス感染症の短期間での終息は難しい見通しであるが、今年度はリモートでの参加や、ターゲットボッチャなど、遠隔でも対戦できる方法に積極的に取り組むことができた。 •今後、ボッチャを広める方法として、直接交流が難しい場合でも、リモートなど間接交流・間接体験での取組を視野に入れて展開していくことも一つの方法であることが分かった。コロナ禍の今だからこそ、校内で創意工夫を凝らすことにより新しい方法を開拓し、多くの人にボッチャの楽しさを広め、パラリンピックを盛り上げていきたい。そして、東京2020オリンピック・パラリンピック以降もボッチャに取り組み、その楽しさをさらに味わい、発信していくことを続けていきたい。